

■児童・生徒の学力の状況

○ORSTの結果では、全国平均値を上回っている分野が多いものの、係り受け解析(文の基本構造を把握する力)、同義分判定(2つの文の意味が同一かどうかを判定する力)の分野では全国より5、6ポイント低い傾向があった。

○全国学力・学習調査の結果から、国語では、全国平均値を上回ったのは半分ほどである。「言葉の特徴や使い方に關する事項」や「書くこと」は、全国平均値より3、4ポイント低かった。算数も全国平均値を上回ったのは半分ほどで「測定」の領域は、全国より8ポイント低かった。ただ、記述式の正答率は、全国、東京都の平均値を上回った。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○児童が主体的に学習に取り組む時間が十分に確保できていない。

○目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けさせる指導が十分ではない。

○既習の学習内容が定着しているかどうかを確認する時間や定着ができていない児童への指導する時間が必要である。

○教員によって、電子黒板や一人一台端末等のICT機器を効果的に活用した授業を展開できる力に差がある。

○児童がICT機器を効果的に活用する技能の育成と共に、紙面に書いてまとめる力の育成も行う必要がある。

■学校経営方針より(学力向上に関わる内容から)

「よく考え、最後までやりぬく子」を育てる(学力の向上)

- 板橋区授業スタンダードを徹底し、児童が見通しをもち、学び方を身に付け自力解決できるようにする。児童一人ひとりが、何を学ぶかを意識し、何を学んだのかを自覚できるように思考の過程が分かるノートづくりの指導を進める。課題の発見と解決に向け、主体的・協働的に学ぶ学習を多く取り入れ、児童に思考力、判断力、表現力を身に付けさせる。
- 板橋区授業スタンダードSとして、子どもたちが自分に合った学習内容、方法、ペース、順序を自己選択、自己決定し、学びを自己調整しながら進める学習過程を実践していく。
- 1人1台端末としての教育理念「学びの4本柱」(知ること、為すこと、人間として生きること、共に生きること)を重視した活動を行う。
- 生活科や総合的な学習の時間の学習内容を充実させる。課題設定から解決までの過程を大切に、子どもが興味をもって取り組み、発達段階に即した学習活動ができるようにする。
- 児童一人ひとりが情報収集・選択・表現力等の情報活用能力を身に付けるために、タブレット端末を活用して情報収集する機会を意図的に設ける。また、プログラミング的思考を育むため、全学年でプログラミング教育に取り組み、ICT教育の充実を図る。
- 集団で学習することの意義を認め、個人内の解決力と集団での解決力を高めていく。自分の考えを発表させたり、他の考えを聞かせたりすることで一人ひとりの良さに気付かせ、さらに集団としての力を高めていく。
- 学校図書館司書や図書ボランティアと連携した読書指導の充実を図り、読書を通して自らの考えを深めようとする学習態度を養い、学ぶ力を総合的に高める。(「本の宝箱」「緑小おすすめ100」に進んで取り組む児童を育てる。)
- 「家庭学習の手引き」「緑の子 学びの宝箱」を活用し、保護者と情報を共有し、家庭学習の習慣づくりを行う。
- 朝学習を計画的に行い、基礎学力の向上を図る。(1,2年…MIM、すららドリル 3,4年…NIE、すららドリル 5,6年…NIE、すららドリル、漢字の書き取り)

■確かな学力の育成に向けての具体的な方策

視点1

板橋区授業スタンダードの徹底、及び板橋区授業スタンダードSの取組

- 各教科の授業で「課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現→課題解決→新たな課題の設定」という学習の流れを定着させ、児童が見通しをもって学習に取り組めるようにする。
- 教員が単元等を選択し、児童が自分に合った学習内容、方法、ペース順序を自己選択して学ぶ場面を設定する。
- 「ひとみ学習」の徹底(一人で、友達と、みんなで)

視点2

ICT環境の適切な維持と活用
個別最適な学び・協働的な学びの実現

- 学習内容や思考の過程が分かるノートづくりの指導と効果的なICTの活用を推進する。
- 場面や内容に応じて、ノートやICT機器を使い分け、獲得したことを分かりやすくまとめたり、説明したりする活動を意図的・計画的に実施する。
- 個に応じた学習を行い、基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得できるようにする。
- グループ学習を各学年の発達段階に応じた人数で取り組ませ、仲間と一緒に課題を解決することの喜びを味わわせる。

視点3

総合的な学習の時間との連携

- 生活科、総合的な学習の時間の学習を通して、各教科等での学習を活用しながら整理・分析し、相手や目的に応じてまとめ・表現する力を身に付けさせる。
- 日常的な言語活動(読む・書く)や主体的・対話的な活動(つなげタイム、KS法、PCを活用した意見交流等)を充実させる。
- 児童の学び(学習の流れ)とSDGsを意識した単元計画(ESDカレンダー)を工夫・作成し、授業を展開する。
- 校内研究で研究課題にもついた検証授業を行い、協議することで指導力の向上に生かす。

■MIRAI SCHOOL いたばし-教育ビジョン2035- -アクションプラン2028-の実現に向けた具体的な取組

保幼小接続・小中一貫教育の推進

- 幼稚園・保育園児が本校の学校行事に参加できる機会を意図的・計画的に設定し、生活科の学習の一環として交流することで連携・相互理解を図り、互いに豊かな人間性を培う。
- 校外の人材活用によりその道のエキスパートとの出会いから、様々な学びにつなげる。
- 5、6年では交換授業(理科・社会)を実施し、同じ指導と評価を行い小中一貫教育(学級担任制→教科担任制)を推進する。

豊かな心と健やかな体の育成

- 道徳の時間の指導を要として対話的活動を取り入れ、考えて議論する道徳教育を充実させ、自己の生き方への考えを深めるとともに、道徳的な判断力、信条、実践意欲と態度を育てる。
- 自他共の人権についても正しく理解し、人権の共存の考え方を日常的に育成する。地域の方との学習やゲストティーチャーによる出前授業において、目的意識と相手意識を持って活動できるように計画、実践する。
- 各教科や総合的な学習の時間と連携し、主体的・体験的活動を軸に、家庭や地域と連携した「生きた知識」の習得をめざす。防災、減災教育において、低、中、高学年で段階的に学べるよう、計画、実践する。

多様な教育的ニーズへの対応

- 特別支援コーディネーターを中心として、特別支援教育の体制を強化し、特別支援教室巡回指導教員や特別支援専門員、SC、心理士と連携し、定期的に校内委員会や特別支援研修会を開く等、個に応じた教育の充実を図る。
- 「不登校支援フローチャート」を基に、未然防止・早期発見・自立支援の3つの段階で、この不登校児童の状況に応じた適切な支援を行う。登校支援シートを作成して校内委員会で共有し、関係機関とともに連携して組織的に不登校対策を行う。
- 感染症や災害の発生等の非常時にやむを得ず学校に登校できない児童等に対して、Google Meet等を用いたオンライン授業を実施し、学びを保障する。

